

文化財建造物保存修理事業の流れ

歴史的な建造物の修復は、単に破損した部分を取り替えるだけでなく、普段知ることが出来ない建物の詳細を調べることが出来る貴重な機会です。福勝寺や和歌山市の旧中筋家の工事写真などを用いて保存修理事業の流れを紹介します。

修理前

修理前に建物を詳細に実測し、部材の破損箇所や状況を十分に把握します。写真等で現状を記録し、各部材に位置を記した番付札を取り付けるなど、解体の準備を行います。



仮設工事

作業を安全かつ円滑に進め、解体した部材等を保管するため、素屋根（屋根付きの作業用足場）や工作保存小屋を建設します。



解体工事

建てられた時と逆の工程で屋根瓦から順番に建物を解体していきます。各工程ごとに調査し記録を取りながら慎重に作業を進めます。



調査

建物の変遷を知るため、各部に使われている部材や釘などの痕跡を丁寧に調査します。解体が終了すれば基礎部分の発掘調査を行います。また地盤の調査も行い、必要が認められれば基礎の補強を行います。

今回の調査で小屋組部分から「天保七(1836)」と記された部材が発見されました。



現状変更

調査などにより建物の歴史が判明した場合、古い時代の姿に復原修理することがあります。また耐震性を高めるため補強目的の改造を行うこともあります。

福勝寺では大正時代に求聞持堂の屋根が改造されていますが、版木から江戸時代の姿が想像できます。



部材の補修・新調

破損した部材も可能な限りもとの材料を生かして補修します。新たに補足する場合も、オリジナルと同じ樹種の木材を用います。瓦や金具なども同様に復原や補修を行います。

組立

修理の終わった部材を、もとの位置に組み上げていきます。伝統的な工法で施工するため、十分な精度で施工するには熟練した職人の技術が必要となります。



完成

組立が完了し、防災設備などを取り付け仮設を解体すれば工事は完成です。竣工写真を撮影し、工事の記録や調査内容を編集した修理工事報告書を発行して事業は完了します。

